

国営・補助(水利施設等保全高度化事業【真狩地区】)

まっかり

事業の概要

○目的

本地区の農地は、起伏に富んだ波状地形で区画も不整形であるとともに排水不良等も生じていることから、国営、道営事業により農地整備を進めてきたが、未だ未整備のほ場が点在しており、効率的な機械作業等に支障をきたし、収益性の低下を招いている。このことから、本事業により基盤整備を行い、生産性の向上と機械作業の効率化を図り、地域農業の安定を目指す。

○概要

事業名 水利施設等保全高度化事業
(畑地帯総合整備中山間地域型)

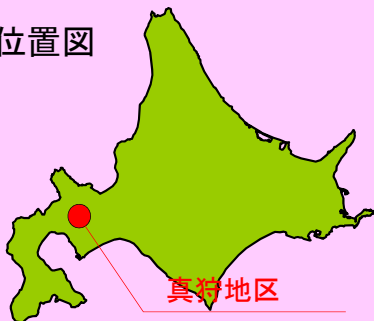
まっかり

地区名 真狩地区
関係市町村 北海道真狩村
事業工期 令和3～10年度
受益面積 236.0ha
総事業費 1,856百万円
主要工事 区画整理 236.0ha

○令和3年度における予算額

国費 467百万円
事業費 850百万円
内容 区画整理 調査設計1式

○位置図



○区画整理、暗渠排水を実施することにより、機械作業の効率化と機械の大型化に対応しうるほ場の整備を進め、生産性の向上・コスト削減・農作物の品質向上を目指し、高収益作物の導入・定着による農業収益の一層の増加を図る。



高収益作物の導入・定着

真狩地区は本村北部の北海道を代表する羊蹄山を起点に、その裾野に流れる中小河川沿いに拓ける農用地を対象としている。

農業を基幹産業とし農業就業者数が人口の多数を占めており、主要農産物の馬鈴薯・てん菜・豆類・小麦に加え、大根や人参も有数の産地であり、雪の下に寝かせた「雪の下人参」は人気となっている。また、ゆり根は、国内生産の約98%を占める北海道産の約4割の作付けを占めており、その多くは関西方面へ出荷され高級食材として利用されている。

羊蹄山とゆり根の移植状況



機械作業の効率化と機械の大型化

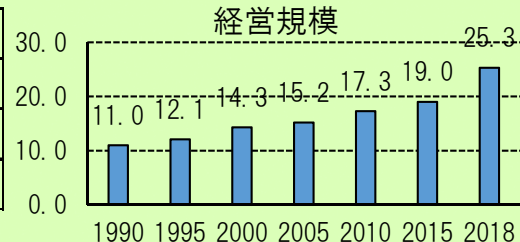
JAようてい管内では、RTK-GNSS自動操舵システムの導入を始め、平成29年には「低コスト型RTK基地局実証実験」が開始され、倶知安・留寿都・黒松内の3基地局を整備し、自動操舵システムの導入が急増している。

真狩村は国営事業による区画整理及び真狩村地域農業再生協議会が平成29年度から3年間「真狩村スマートモニター事業」として支援を行い、導入が進んでいる。

戸当たり経営面積が拡大する中で、現在の経営規模は25haで、10年前の1.5倍にも拡大しており、規模拡大による大型農作業機械に対応した基盤整備が求められている。

町村名	H27前	H28	H29	H30	合計	
後志管内		1	22	37	39	99
真狩村			10	15	11	36
導入割合		0%	45%	41%	28%	36%

自動操舵導入状況(単位:台) H30後志農改調べ



自動操舵トラクターによる作業状況

